

# 横浜市繁殖センターで 待望のミゾゴイのメスのふ化に成功

横浜市の動物園では、平成 16 年から 10 年以上にわたって絶滅危惧種であるミゾゴイの飼育や調査・研究に取り組んでいます。

繁殖センターでは、平成 27 年に国内初の繁殖に成功して以降、継続的に繁殖に取り組んでいます。今回、初めてとなるメス 1 羽を含む 3 羽のふ化を確認しました。

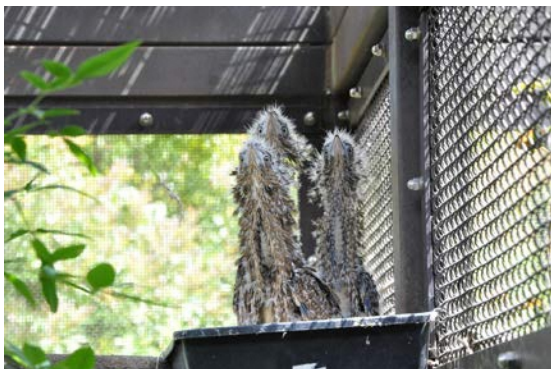
ミゾゴイはサギの仲間で、里山などに生息する渡り鳥ですが、近年、生息環境の消失などにより急激にその数を減らしてきています。このため、今回のメスの繁殖により、今後のミゾゴイの保全にさらに寄与していけるものと考えています。



ふ化 9 日令のミゾゴイの雛

## ■繁殖センターでこれまでに繁殖に成功した個体の情報

平成 27 年	6 月 20 日、21 日に各オス 1 羽ふ化（国内初）
平成 28 年	5 月 14 日にオス 1 羽がふ化
平成 29 年（今回）	6 月 2 日にオス 1 羽、メス 1 羽、5 日にオス 1 羽がふ化
雄親	平成 24 年(2012 年)9 月 6 日に東京都墨田区で保護
雌親	平成 26 年(2014 年)1 月 10 日に大阪府堺市で保護



ふ化 20 日令のミゾゴイの雛



成鳥のミゾゴイ

## ■横浜におけるミゾゴイ保全の取組

平成 29 年 6 月現在	飼育頭数 オス 7 羽・メス 2 羽 計 9 羽 (今回の 3 羽含む)
平成 16 年 10 月	よこはま動物園において市内で保護されたミゾゴイの飼育を開始
平成 24 年 8 月	繁殖センターの種の保存事業としてのミゾゴイの導入を決定 野毛山動物園との共同保全活動を開始
平成 25 年 1 月	特別講演会「ミゾゴイのひみつ」開催 (主催: 野毛山動物園)
平成 25 年 5 月	繁殖センターでのミゾゴイ飼育着手
平成 25 年 8 月	繁殖センターが野生動物医学会にて「ミゾゴイの遺伝的多様性の解析」ポスター発表
平成 27 年 2 月	繁殖センターでのペアリング (雌雄同居) 開始

## ■ミゾゴイについて

種名(学名)	ミゾゴイ ( <i>Gorsachius goisagi</i> )
分類	ペリカン目サギ科ゴイサギ属
分布	夏鳥として 4 月頃に本州、佐渡、隠岐、四国、九州に渡来して繁殖し、10 月頃に越冬地である台湾、中国南東部、フィリピンなどへ渡り越冬する。
生態	平地から山地の沢の流れる雑木林などに単独またはつがいで生息し、ミミズや昆虫、カエルなどを餌とする。繁殖期は 4~8 月で、7~15m の高さの樹上に 30~50 cm の巣をつくる。抱卵期間はおよそ 28 日、孵化後 35~39 日で巣立つ。
希少性	野生の生息数は BirdLife の調査で 1,000 羽以下とされており、IUCN のレッドリストでは絶滅危惧 IB 類 (EN)、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 II 類 (VU)、神奈川県レッドデータブックでは絶滅危惧 I 類に指定されている。
飼育状況	ミゾゴイの国内動物園での飼育事例は保護個体を少数飼育しているだけである。 【国内飼育園館: 飼育個体数 (雄の個体数.雌の個体数. (雄雌不明個体数))】 野毛山動物園: 1 羽(1.0) / 金沢動物園 3 羽 (3.0) / 横浜市繁殖センター 9 羽(7.2) 宮崎市フェニックス自然動物園 7 羽(2.2.3) 合計 20 羽 (2017 年 7 月 7 日現在) 横浜市繁殖センターで飼育されている雄 1 羽が最も飼育歴が長く、12 年 7 ヶ月間飼育されている。

## ■繁殖センターについて

希少動物の保全及び繁殖を通して生物多様性の保全に貢献しています。これまで、カンムリシロムクの野生復帰やカグー等の希少動物の飼育下繁殖に成功してきました。また、国内の動物園としては初めての研究を目的とした実験設備を備え、希少野生動物の亜種判定や近縁関係、雌雄判別などに関する遺伝子解析、繁殖生理解明のための性ホルモン動態の解析など、「種の保存」に関わる研究を行っています。さらに、動物の精子、卵子、組織の凍結保存、人工授精等を試み、遺伝資源の保存にも取り組んでいます。

※記事掲載のために写真が必要な場合は、Eメール (ks-dobutsu@city.yokohama.jp 件名:「ミゾゴイ写真」) でご連絡ください。データ (JPEG) を添付して返信します。

お問合せ先	
環境創造局 動物園課長 長谷川 正英	Tel 045-671-2607